

第7章 公共交通との連携

7.1 地域公共交通網形成計画との関係

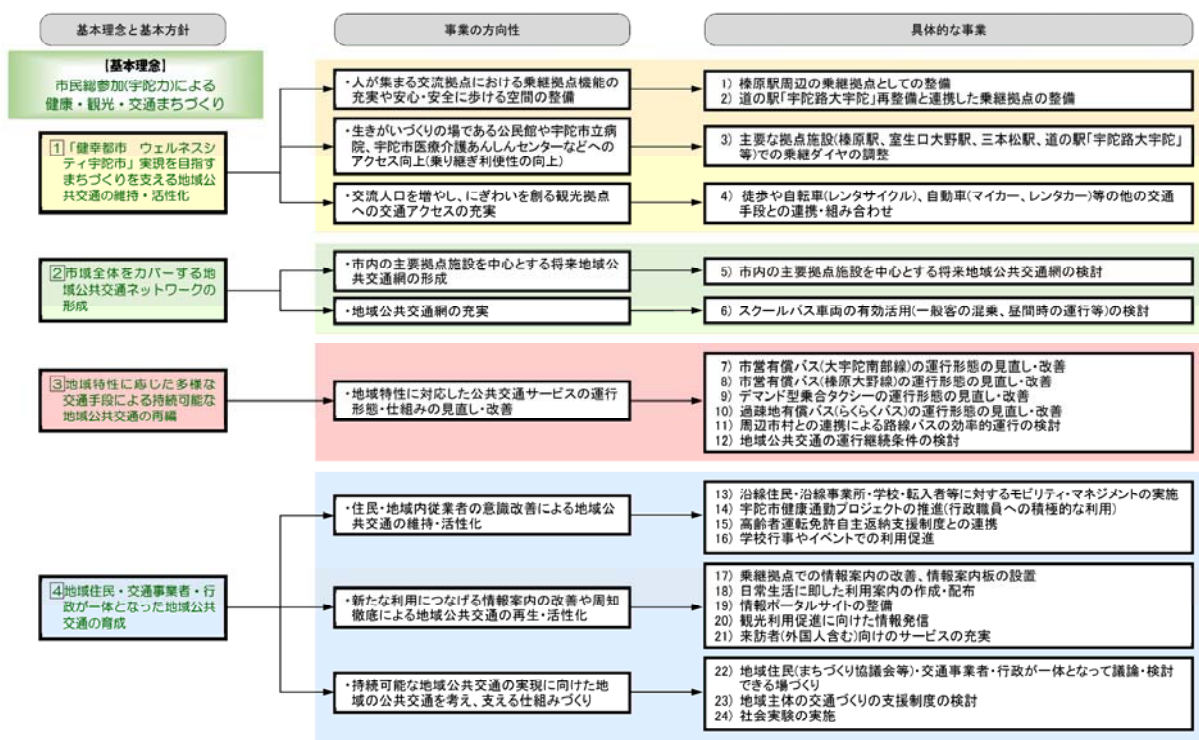
本市の持続可能なまちづくりの実現のために、都市機能を都市の中心拠点や生活拠点に集約する際、高齢者をはじめとする住民がこれらの日常生活に必要なサービスを身近に享受できるようにするためには、拠点へのアクセスや拠点間のアクセスを確保するなど、公共交通の維持・充実についても整合を図る必要があります。一方、持続可能な地域公共交通ネットワークの形成は、都市機能誘導区域への都市機能の誘導や、公共交通沿線への居住の誘導について一体的に検討する必要があります。

本市では、「市民総参加(宇陀力)^{うだちから}による健康・観光・交通まちづくり」を基本理念として、宇陀市地域公共交通網形成計画を平成27年(2015年)4月に策定していますが、両計画は集約型のまちづくりを目指す上では両輪となるものであり、今後も居住誘導区域及び都市機能誘導区域と、持続可能な地域公共交通ネットワークの形成に関する取組の整合を図ることとします。

7.2 めざす公共交通ネットワークのあり方

宇陀市地域公共交通網形成計画では、将来公共交通ネットワークを以下の通り設定しています。本市の玄関口である近鉄榛原駅を中心として、大宇陀地域・菟田野地域・室生地域に向けた路線バスの運行の維持・利便性向上を図るとともに、室生地域でのデマンド型タクシーサービスを維持し、公共交通空白地域の解消に向けた取組を今後も進めていきます。

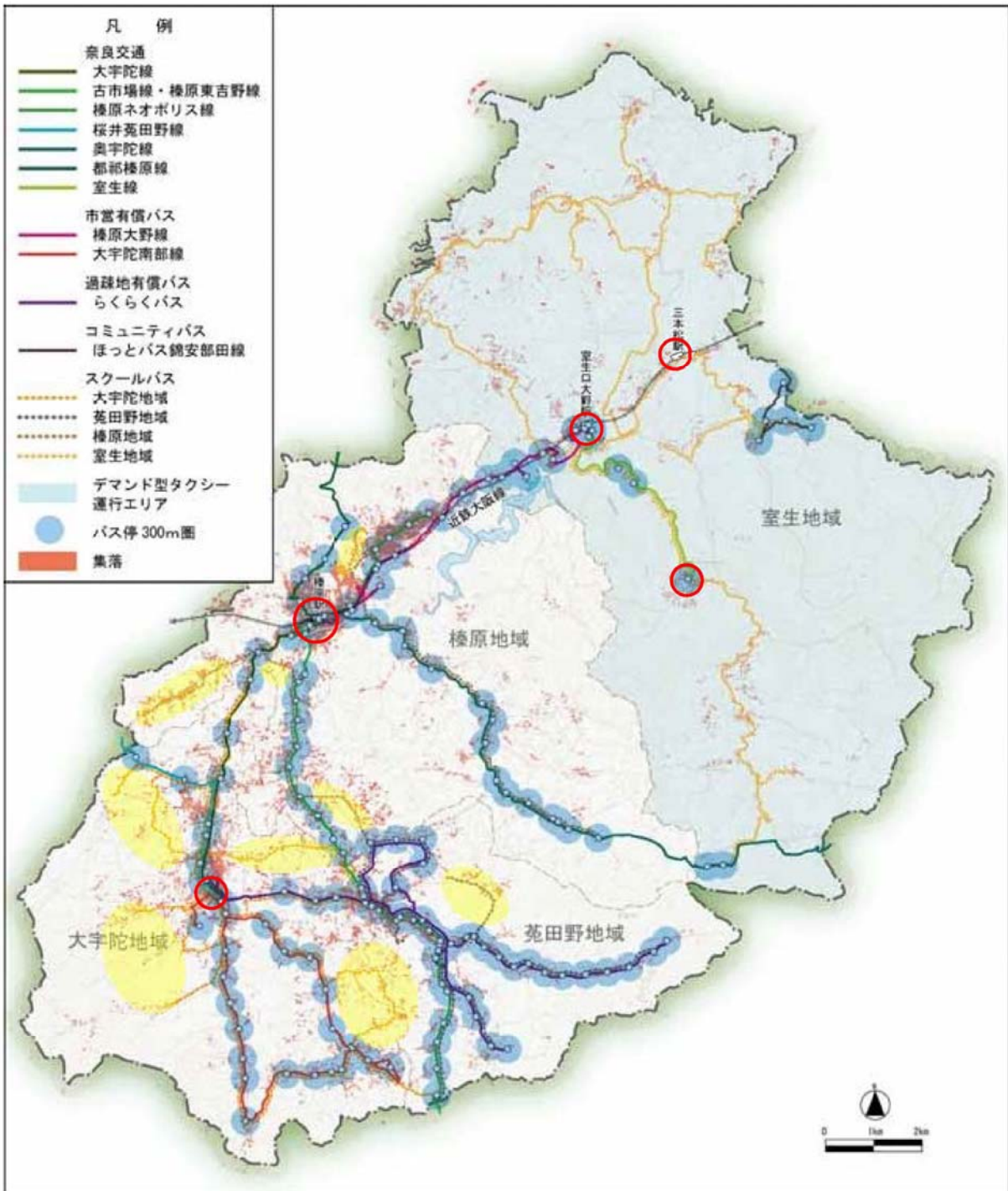
表 地域公共交通網形成計画の目標達成のための事業概要



資料：宇陀市地域公共交通網形成計画

● スクールバスによりカバー
することが可能となるエリア

○ 徒歩・自転車でカバーできるエリア
(高低差の少ない中心部、拠点施設
周辺、観光施設周辺など)



資料：宇陀市地域公共交通網形成計画

図 地域公共交通網の形成イメージ